

AED・心肺蘇生法講習会

- 1 日時 令和7年7月24日(木)14:00~15:30
7月25日(金) 14:00~15:30 (どちらか1日)
- 2 会場 向洋会館
- 3 対象者 全職員・各部活動の代表生徒
- 4 講師 延岡市消防本部 (数名)





救命講習テキスト

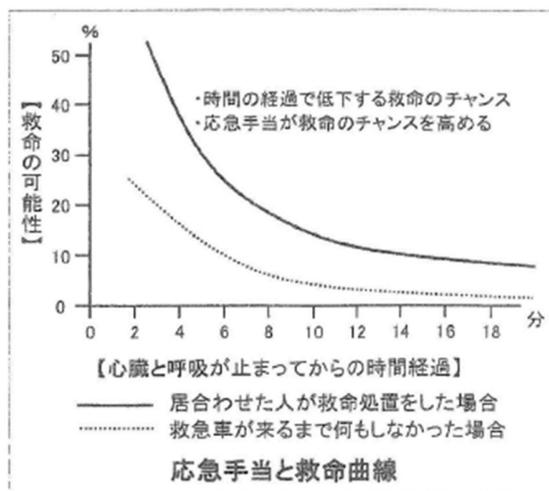
1. 救急車が来るまでに

心臓や呼吸が止まった人の治療はまさに1分1秒を争います。図を見ても分かるように、心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、その後の約10分間に急激に減っていきます。このような時、まず必要なことは『すぐに119番通報する』ことです。

119番通報が早ければ、救急隊員による救命処置や医療機関での治療を早く受けることができます。

しかし、救急車が到着するまでには全国平均で約9分かかります。救急車が来るまで何もしていないでは、助かる命も助けられないこととなります。そうならないためにも、そばに居合わせた皆さん一人ひとりが救命処置を行えるよう、心肺蘇生法やAEDの使用方法を身に付けておくことが大切なのです。

その場に居合わせた「住民」から「救急隊」へ、「救急隊」から「医師」へ、命のバトンを引き継ぐ「救命のリレー」を途切れさせないためにも、一人でも多くの住民が勇気を持って「何か一つ」でも行動に移し、救命の第1走者として「救命のリレー」をスタートさせてください。



一ヶ月後の社会復帰率は何もなかった場合とした場合では約3倍違う。



救命のリレー

○救命のリレーと救命の連鎖

「救命のリレー」は、「それぞれの場面の担当者が役割を引継ぐことの重要性」を表しているのに対して、「救命の連鎖」は、「傷病者の命を救い、社会復帰に導くために必要となる一連の手順」を表しています。

2. 救命の連鎖

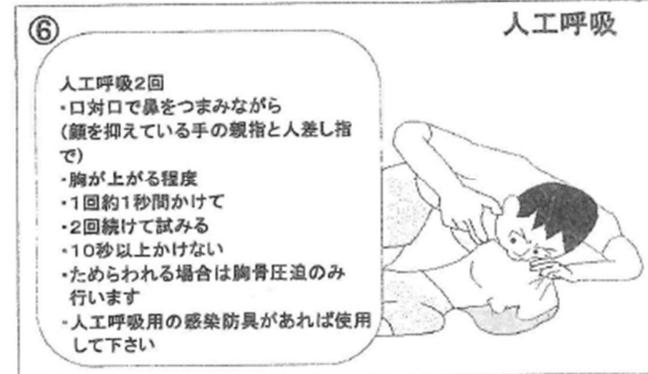
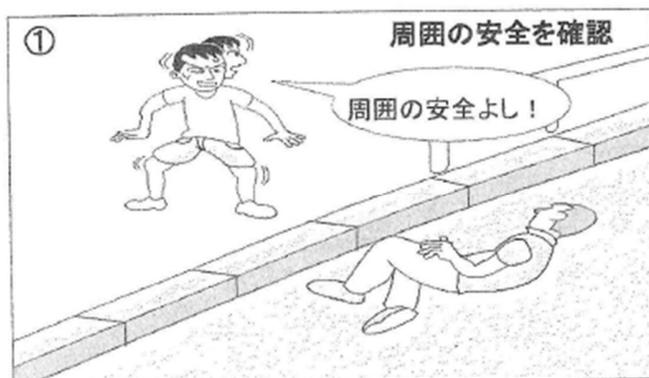
傷病者の命を救い、社会復帰に導くために必要となる一連の行いを「救命の連鎖」といいます。

「救命の連鎖」は、「心停止の予防」「心停止の早期認識と通報」「一次救命処置（心肺蘇生とAED）」「二次救命処置と心拍再開後の集中治療」の4つの輪で成り立っており、この4つの輪が途切れることなくすばやくつながることで救命効果が高まります。

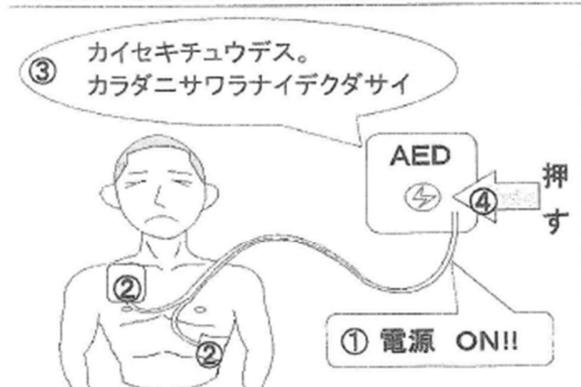


救命の連鎖

おぼえよう心肺蘇生法



AED(自動体外式除細動器)



※AEDに未就学児用パッドやモード切り替えがなければ小学生~大人用パッドを使用。

- ① AED(電気ショック)の電源を入れる。
 - ・電源を入れたら、それ以降は音声メッセージに従って操作します。
- ② 電極パッドを貼る。
 - ・電極パッドをシールからはがし、粘着面を肌にしっかりと貼り付けます。
 - ・電極パッドには、貼り付け位置の絵があります。
- ③ 心電図の解析
 - ・電極パッドを貼りつくと、「体に触れないで下さい」と音声メッセージが流れ、心電図の解析が始まります。
 - ・「ショックは不要です」といった音声メッセージの場合は、直ちに心肺蘇生法を再開します。
- ④ 電気ショック
 - ・「ショックが必要です」といった音声メッセージの場合には、自動的にエネルギーの充電を始めます。
 - ・充電が完了すると、「ショックボタンを押して下さい」といった音声メッセージが流れますので、誰も患者に触れていないのを確認して、ショックボタンを押します。現在オートショックのAEDも開発されています。

延岡市消防本部